

令和4年度 江津市立高角小学校 学校評価書（まとめ）

学校教育目標 「豊かな心とたくましさをもち、確かな学力を身につけた子どもの育成」

評価の基準

- めざす子ども像
- たのしむ子…コロナ禍であっても学校生活を楽しむ子
 - かかわる子…ひと・もの・こととの関わりを喜び・楽しむ子
 - つづける子…努力を続けることを楽しみ、報われることを喜び子
 - のんびりする子…自分・友だちの心がのんびりできるような時と場を創り出して楽しむ子

- 評価の基準
- 1：ほとんど達成できていない
 - 2：3～4割程度達成できた
 - 3：6～7割程度達成できた
 - 4：ほぼ達成できた

経営目標 **みんなが創る 一人一人が主役の 高角小学校**

取組の重点	重点項目	目標達成のための計画（成果・取り組み指標）		評価	○成果と△課題	改善策	児童アンケート項目	保護者アンケート項目	地域アンケート項目	評価委員評価
		具体的方策	評価の観点							
教育課程	教務に関する業務経験を積む。	早めの起案、動きが定まるようにこれまでの資料を見たり、相談したりしながら準備をする。また、できるだけ校内全体の様子に気を配り、課題があれば改善策が見つかるよう工夫する。	スムーズな学校運営につながっているか。	3	○特に大きな行事（学習発表会など）の際には、昨年度の反省や学校全体の動きを把握して計画する必要があると感じた。	・反省点や職員全員の意見を生かした行事にするためにも早めの起案を行う。また、早めの起案になるように声かけする。 ・3学期は来年度に向けての準備を早める。	・ふるさと（島根、江津、嘉久志、和木）のことを勉強して、新しいことを知ることができた。 →95%	①学校は、新型コロナウイルス感染症と共存できるような教育活動を行っている。 →94%	①学校は、新型コロナウイルス感染症と共存できるような教育活動を行っている。 →100%	・褒めて指導することを大切に今後とも教育を行ってほしい。 ・評価に関しては個人内評価の場合、低くしてしまう傾向がある。若い人材との対話を大切に評価を行って変革してほしい。
	教務副主任として、持ち味を生かす。	できるだけ校内の様子に気を配り、気付いたところがあれば声をかけたり、相談したり、手伝いをしたりする。	スムーズな学校運営に少しでも貢献できたか。	3	○前年度までの様子からできる範囲のところで、昨年度の反省や学校全体の動きを優先して、できることが限られ、部員にも助けられている。	・できることを、できる範囲で行う。	・キャリアパスポートで自分のことを見つめることができた。 →89%	②学校は、嘉久志・和木の地域やふるさとのひと・もの・ことを生かした学習を行っている。 →97%	②学校は、嘉久志・和木の地域やふるさとのひと・もの・ことを生かした学習を行っている。 →100%	
学力育成	校内研究の取組が進むように、基盤づくりをするともに、経験を積む。	充実した校内研究になるように研究構想や研究計画を考え、計画的に研究を進める。早めに相談して分担して進める。	校内研究の計画を立て、進めることができたか。	2	○研究授業を実施できた。 △計画を立てるのが遅く、参加人数が少なくなったり、事前の審議や事後の協議ができていないことがあった。	・早めに計画を立てる。	・勉強は好きだ。 →71%	④学校は、学習内容が身に付くように、学習指導を行っている。 →97%	④学校は、学習内容が身に付くように、学習指導を行っている。 →100%	・保護者、地域のアンケート回答選択肢で「分からない」と回答した方の中には、学校教育に対してあまり関心がない方もおられるのではないだろうか。「分からない」の選択肢をなくし、学校教育に関心を持ってもらえるような声掛けも必要である。
	学習状況アンケート…校内研究の内容に沿って、状況がつかめるアンケートを工夫する。	研究主任と連携し、校内研究の取り組みが状況が分かるようなアンケートを実施する。アンケート結果を授業改善に生かす。	アンケート結果を校内研究に生かすことができたか。	2	△アンケート結果をどのように授業改善につなげていくか、共通理解できなかった。	・アンケート結果を授業改善に生かせるようにする。	・おうちの勉強はできた。 (1・2年20分、3・4年40分、5・6年60分) →95%			
	研究主任のサポートに努め、授業改善につなげる。	研究主任と研究構想や、研究授業の日程等を相談しながら計画的に研究を進める。研究主任の負担が大きくなるようにしない。	校内研究を計画通りに進めることができたか。	3	○研究主任と相談し、分担等を決められた。 △相談するのが直前になることがあった。	・研究計画をもとに、余裕をもって、研究主任と相談をする。	・のびのびタイムで、読書をして、ほっと安心できた。 →92%			
	学校図書館活用をよりよく工夫する。	授業での図書館利用の促進と読書活動の推進を図る。(担任への声かけ、委員会の活用、学校司書との連携)	全校の貸し出し冊数19000冊を達成できたか。	3	○12月の時点で15000冊を超える貸し出しを行っており、8割程度達成できている。1人当たりの平均冊数も県内の平均を超えている。 △学級によって偏りが見られる。	・学校司書との連携をとり、現状を把握する。 ・授業での活用を呼びかける。 ・委員会活動と運動させて図書館活用を促す。	・授業で自分の考えを周りの人「ペア・グループ・全体」に説明したり、発表したりしている。 →77%			・あいさつについては、学校、保護者、地域とも、評価があまり高くないが、地域で過ごしている児童と会ったり話したりすると、礼儀正しく関わる児童が多いと思う。
体力向上	全校の体力づくり及びけがの予防につながる運動能力の向上をめざす。	体育の授業の中で、バランス感覚や柔軟性を高める運動を積極的に行う。また、「できるようになった」体験を増やし、運動能力向上と運動への興味・関心を高める。	転倒によるけがの件数を昨年より減らす。新体力テストの2項目(上体起こし、長座体前屈)の得点の平均値を伸ばす。	3	○件数は減っているものの受診につながる怪我があったことや、周囲の物や人にぶつかって起こる怪我也多く見られる。	・体育の授業の中で、正しい体の動かし方を身につけるとともに、友達と関わる運動や用具を使った運動なども積極的に取り組む。				・地域としての協力は不可欠である。児童を評価する際には、大人目線で判断するのではなく、地域の大人が子どもと関わりあう姿勢(地域で育てる)をもったうえで、評価が必要である。児童の様子を見るだけでなく、大人からの関わりが大切であると感じ、子どもの話を聞いてやってほしい。また、自分たちの町のよさを見落としている。子ども目線で町の自慢はありはしないだろうか。
	経験を生かして体育主任とともに考え補佐する。	体育主任と相談しながら体育的行事・活動を運営する。全校体力作り活動を行う。	体育的行事・活動が滞りなく運営できたか。	3	○五江大会、水泳、運動会など、相談しながら滞りなく進められた。 △体力作り推進活動になかなか取り組みなかった。	・委員会活動(体育)と運動させる。				
健康・安全	けがの予防…様々な角度から安全面を見直す	けがマップやけがの記録を作成し、再発防止のための啓発をする。	受診を要するけがの件数を昨年度(51件)より減らす。	2	○けがの件数は現時点で3件減。 ○グリーニングの修理に動いてもらった。 △手術を要する大きなケガが2件あった。	・体育的活動の安全指導や、休憩時間の教室での過ごし方の指導が必要。	・「はやね、はやおき、あさごはん」ができた。 →89%			
	生活習慣作り…安定した心で授業等に取り組める子どもづくり	児童保健委員会活動で食事について調べたり呼び掛けたりする。食事と排便についての保健指導を行う。	ノーマディアウィークのよい生活習慣カードでそれぞれの項目の達成率80%以上をあげた。	3	○メディアの時間がかなり減っている。 ○学校保健委員会等で排便をとりあげ、排便の達成率が62.4%と昨年度より10%以上アップした。	・全校朝礼や学校だよりでの啓発がきている。引き続きの意識づけの大切さを感じている。	・「ろうかはあるく」など、きまりをまもって、生活できた。 →81%			
特別支援教育	校外関係機関と連携し、児童のあらゆる情報を得て、有効な支援を行う。	学期ごとに校外児童支援機関と連絡を取り、利用児童の様子を把握して、見直しをもつ。	情報交換により、児童の学校外での姿を捉え、児童理解を深めることができたか。	2	△該当児童の担任の方で密に連携をが取られており、時折、事務連絡をする程度になった。	・該当児童の担任との連携を密にし、有効な場面で職務を果たした。				・マクス着用については、一律ではなく、学校や施設の意向を優先して依頼することが必要。
	校内委員会を運営し、実態把握、保護者・関係機関との連携、適切な支援をする。	月1回の校内委員会を計画・実施し、具体的な支援方針を立てていく。連携部、特別支援COで相談・調整して、次の会につながる校内支援委員会にする。	校内委員会で、支援方針や手立てについて適切に検討することができたか。	3	○必要に応じて校内委員会を開くことができた。校長先生にその場で記録していただき、回覧レポートで共有することができた。 △第3木曜日に計画的にいれることができなかった。	・校長先生にさせていただいている会の記録と情報伝達をコーディネーターでできるようにしていきたい。(その場で記録のまとめが終わりとも助かった)				
	通級教室と連携し、教職員全体で適切な支援を行う。	週1回は通級教室と情報交換を行い記録し、関係教職員と共有する。通級について担任・保護者と連携をする。必要に応じて職員会議や校内委員会で情報提供する。	通級での様子を共有することにより、日々の支援に生かすことができたか。	3	○面談を行い、担当の先生と担任が情報を共有することができた。 ○支援の一つとして、養護教諭に家庭訪問してもらった。 △日々やり取りする時間がなく、相談に時間がかかる。	・デスクトップを活用し、直接会えない時も連絡が取れるようにする。				
生徒指導	子ども一人一人のやる気や笑顔を増やすよう、校内生活の充実化を図る。	学期に1回、教育相談期間を設け、実態把握と心の理解に努めるとともに、情報交換をし、より良い支援につなげる。早期の教育相談期間の設定と情報共有の場の確保を行う。	学期に1回、情報交換の場をもち、子ども一人一人の学校生活の改善に取り組んでいるか。	2	△教育相談期間は設定し実施できたが、特に配慮が必要な児童の支援の在り方について共通理解を図ることができなかった。新学期初めの職員会議で情報共有を図りたい。	・各学期のできるだけ早い時期に情報交換し、共通理解のもと一人一人の児童の指導や支援ができるようにする。	・なかよしの友だちと楽しくすごせた。 →98%	③学校は、あいさつが向上するための取組を行っている。 →86%	③学校は、あいさつが向上するための取組を行っている。 →92%	
	児童理解と校内連携…校内で連携して児童を支援し、よりよい成長へ導く。	Q/Uアンケート等を用いて、定期的に児童の共通理解を図ることで、いじめ不登校を防止する積極的な生徒指導を行う。Q/Uの結果を踏まえ、子どもを語る会やケースの実施。気になる子どもについては、低中高学年部会を開いて共有する。	学期に1回、情報交換の場をもつとともに、校内の組織を活用したケース会議等が適切に開かれ、担任のサポートができたか。	3	○児童の問題行動、不登校傾向の児童への対応について、学年部を通して主任や管理職へ情報が伝わり適宜ケース会議を持つなど組織として対応した。 △各学級の様子に関して情報共有が遅くなかった。	・デスクトップを活用し、早めに教職員で情報共有できるようにする。	・明るく、いつでも、自分からすすんで、あいさつができた。 →83%	⑤学校は、トラブルやいじめに適切な対応を行っている。 →94%		
	掲示物を整え、雰囲気良くする。	定期的に掲示物をチェックし、整える。参観日前には、声かけをする。	掲示物がきれいな状態で保たれているか。	3	○掲示物がきれいに保たれていた。落し物は、各学級に回して確認してもらうことで持ち主を早く見つけることができた。 △落し物が入っている箱にものがいっぱいになってしまったことがあった。	・定期的に、落とし物が入っている箱を確認する。	・友だちをよぶときは、「さん」をつけるようにした。 →79%			
集団づくり	個々の課題に寄り添いながら、伸びやかさと規律のある集団作りをする。	集中して授業に臨む態度を要求するとともに、業間や昼休みに話を聞いたりと一緒に遊んだり、グループでの課題解決や話し合いをしたりして、児童との良好な関係を築く。	授業に集中して、意欲的に学習に取り組めているか。明るく温かな反応のある学級集団になっているか。	3	○集中して真剣な態度で授業に取り組むことができるようになった。 △主体性に弱さが残る。	・児童主体の活動を取り入れて経験を積ませ、主体的に行動できるようにする。				
	事務処理にかかる時間を減らし、児童理解等への時間確保と残業時間の削減をめざす。	事務処理ファイルを作成し、教職員に提供する。	事務処理が楽になったと感じた教職員が増えているか。	2	○時間割作成ソフトを使うことで、年度始の時間割作成がスムーズにできた。 ○家庭訪問、面談予定作成、時数計算表を今年度も引き続き使用し、事務作業時間の削減につながった。 ○名簿データを一元化し、名簿、校外班連絡等の正確な作成に生かすことができた。 △事務処理にかかる時間をもっと削減できる処理方法を考えていく必要がある。	・次年度に向けて、新たな方法を考えて準備を行っていく。				⑤学校は、情報を公開し、様子を伝えている。 →100%
環境整備	業務内容、手順など、担当が変わっても支障が出ないよう整理する。	手順を明文化する。職員に配るプリントを増やしていく。	担当が変わっても、業務に取り組める状況になっているか。	2	○約束ごとを文字にして残すことで、新しい職員へも伝わりやすくなった。 △担当者にはわからない状況のものが多い。	・担当者のノウハウを文字にして残す。				【補足】保護者アンケート「分からない」の回答率 設問①→11% 設問②→9% 設問④→28% 設問③→7% 設問⑤→21%
	学校環境を知り、業務内容を少しでも早く覚えられるようにする。	学校環境をもっと知るために、知らない、分からないことを積極的に質問していく。	学校環境について少しでも理解しようとする努力をしているか。	2	○毎月しなければならぬ業務が少しずつ出来るようになった。 △それぞれの行事でスムーズに取り組む事が出来なかった。	・初めての行事でもスムーズに取り組める様に事前に何をすればいいのかきちんと確認し準備をする。				【補足】地域アンケート「分からない」の回答率 設問①→28% 設問②→17% 設問④→22% 設問③→44% 設問⑤→6%
	学校の様子を知り、内外の環境を整える。	日々学校の周りを見て、環境を整えていく。	児童が過ごしやすい環境になっているか。	2	△環境整備については、まだ十分ではない。	・計画的に整備を進めていく。				